

『言葉の裏に』

バトルクリーク補習授業校（ミシガン州）

小六 おおくま 大熊 ようへい 洋平

（海外滞在年数三年九カ月）

“You are blessed.”（あなた達は神様に祝福
祝福されています。）

午前授業だったあの日、母と立ち寄ったハンバーガー
ショップで会計をする時、店の人にこう言われた。一し
ゆん、母も僕もきよんとした。どういうことかと母が
たずねると、

「前の人が、もうあなた達の支払いをすませてくれてい
ます。だからあなた達はお金を払う必要がないんです
よ。」

と言われた。そして店の人はにっこりと笑って、もう一
度言った。

“You are blessed.”

これは、「ペイ・イット・フォワード」というらしい。
ファストフード店で次の人の分まで会計をするなど、見
知らぬ誰かに親切な行動をし、親切を受けた人はまた別
な人に親切をする。母は、その日ハンバーガーショップ
で払うつもりだった金額を、動物保護の団体に寄附しよ
うと思ったようだ。

普段、この「ペイ・イット・フォワード」では、自分
が支払いをしなくていいと知った時には前の人、つまり
自分のために払ってくれた人はもうそこにいない。誰が
自分に親切にしてくれたのか分からないままだ。僕たち
の場合、たまたま前の人がまだ自分の注文を待っていて
そばにいた。母はかけ寄って、お礼を言い、どんなに感
動したかを伝えた。店の人もその男性の親切をたたえ、
その男性も店の人に、あなたのお客さんに対する対応や
笑顔がすばらしい、と声をかけた。みんながそれぞれを
ほめ合って、その場の空気がとても温かくなった。

親切にしてもらっていやな気分になる人はいない。普
段より何倍もおいしく感じるハンバーガーを食べながら、
僕も人に親切にしたいと心から思った。しかも、お礼を
言われるためではなく、僕がしたとは分からない方法で
人を喜ばせたいと思った。

三年八カ月前にアメリカに引っこしてきた時、アメリ
カを知るということは英語を覚えるということだと思っ
ていた。アメリカに住み、学校に通い、友達ができ、英
語に不安を感じなくなった僕はアメリカを知った気にな
っていた。

でも、「ペイ・イット・フォワード」を体験して、ア
メリカの人々の考え方やアメリカの歴史、そして文化を
知ることが大切だと気付いた。言葉だけを学んでも、そ
の国のことやその国の人々のことが分かったとは言えな
いのだ。

例えば、ハンバーガーショップの店員さんの一言にも気付くことがある。その人は僕たちに、**lucky**（運がいい、ついている）ではなく、**blessed**（神様に祝福されている）という言葉を使った。おそらくその人はキリスト教徒なのだろう。選ぶ言葉に、その人の信仰が表れるというのとはとても興味深いと感じた。言葉の裏にあるその人の背景を、言葉を通して知ることができる。

また、英語にはほめる表現がとても多いと感じる。テストでいい点数を取った時、先生たちからたくさん言葉でシャワーのように浴びることになる。よくやった、努力したことがよく分かるよ、洋平は数学の才能に恵まれている、君はケタ外れだ：など、大げさではないかと思うほどプラスの言葉をたくさん使ってほめてくれる。

これも、アメリカの文化がよく表れていると思う。アメリカでは先生も親もとにかくよくほめる。自分の子供のことをほめられた親は、けんそんなんてしない。それどころか、さらに自分の子のすばらしいところをどんどん話す。僕のアメリカ人の友達がみんな自分に自信を持っていて堂々としているのは、もしかしたら小さいころからいつもほめられて育ってきたからかもしれない。

言葉の裏に、背景がある。言葉をよく学ぶことで、その国の文化が感じられることもある。文化を知ること、言葉の理解もより深くなる。言葉と人、言葉と文化はつながっている。これが、僕がアメリカ生活で学んだ大切なことだ。

もうすぐ僕は日本に帰国する。また日本語にたくさん触れることで、日本語の背景にある文化を知ることができるとも楽しみだ。